

様式（評価機構＋東京都版追加項目）

令和7年度
自己点検・評価報告書

令和8年5月31日

専門学校青山ファッションカレッジ

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1	基準6 教育活動の基盤と情報の公表.....	21
基準1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント	2	6-1 中期事業計画と財務基盤.....	21
1-1 教育理念、目的及び目標の設定等.....	2	6-2 学校運営.....	22
1-2 職業教育のマネジメント体制の整備.....	3	6-3 学校評価の実質と改善活動	23
基準2 教育課程、教育の実施、学修成果	4	6-4 社会からの理解と情報の公表.....	24
2-1 教育課程の編成と授業科目	4		
2-2 教育課程の実施.....	6		
2-3 単位・卒業認定.....	8		
2-4 学修成果目標の達成状況	9		
基準3 学生の受入れ、学生支援	11		
3-1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	11		
3-2 多様な学生に対する修学支援.....	12		
3-3 学生生活に関する支援.....	13		
3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援	15		
基準4 教員・教育実施組織	16		
4-1 教員の配置、募集、採用	16		
4-2 教員の組織編制等.....	17		
4-3 教員の資質の向上	18		
基準5 教育環境.....	19		
5-1 教育環境の整備点検、改善等.....	19		
5-2 安全対策、防災組織	20		

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和7年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
『社会に出て通用する人材の育成』を目的とした、ファッション専門教育および人間教育を永続的に実施し、多くの有能な人材をファッション界に輩出することにより、社会に貢献することを教育理念とし、少人数制と産学連携教育により実務経験豊富な教員が親身な指導を行い、学生一人ひとりの目的達成に導くことを目標とする。	学生の満足度向上を図ることを重点目標と位置づけ、授業内容・授業運営方法の一層の充実を図るとともに、学生一人ひとりに対する適切な就職指導など、従前に引き続き、更なる教育の質の向上を推進する。また、コロナ禍で減少した入学者数を、コロナ以前の水準に戻すべく広報活動の強化を図る。	学生による授業評価調査の結果、授業満足度は昨年より若干低下し、満足傾向 81.4%・中庸傾向 11.8%・非満足傾向 6.8%となった。調査結果を授業ごとに検証し、改善が必要な事項等についてのフィードバックを行った。全体的な授業満足度向上に向けては、時代のニーズに対応した実務経験豊富な教員を増強するとともに、カリキュラムを一部改定したほか、授業要項（シラバス）により、授業目的・到達目標・評価基準・教員の実務経験等の明確な開示を行った。また、産学連携やインターンシップによる実社会での職業体験を実施し、実践的な学習により知識・技術の向上を図り、将来の職業選択をする上での有用性が認められた。入学者数に関しては、広報活動を強化したが、昨年度より入学者数は減少してしまった。	少人数制の教育の中で以下に学生に対し適切な指導を行い、授業科目にもよるが、学生一人ひとりの到達レベルの設定を可変的なものとし、達成感を得やすい授業運営を行うことが肝要であり、そのための指導方法の考察・試行を、次年度以降に向けての継続検討課題とする。 また、産学連携教育の充実を図り、より教育プログラムを魅力的なものにブラッシュアップしていくとともに、その内容を広報活動につなげ、入学検討層を増加させていく。

最終更新日付	2026 年 5 月 31 日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------------	-------	-------

基準 1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント

1-1 (1/1)

1-1 教育理念、目的及び目標の設定等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
1-1-1 教育理念等を踏まえ、当該専門学校として、目的及び目標を設定し、学科（コースを設置している場合はコースごと）ごとに育成する人材像を明確にしていること。	○当該専門学校の教育理念を踏まえた目的、目標が適切な決定過程により設定されているか ○設置している課程（学科、コースを設置している場合はコースごと）ごとに目的、目標、育成人材像が具体的に示されているか ○当該専門学校の教育理念、目的、目標と学科等ごとの目的等との関連性が明確になっているか ○また、入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、卒業認定方針との関連性が明確になっているか ○教職員、学生、社会に対して教育理念等が十分に周知・公表されているか	学校全体の教育理念は明確に示されているが、学科毎に到達すべき目標や育成人材像が明文化されていない。 教育課程編成に関しては、教育課程編成委員会を組織し、外部からの有識者のアドバイスを基にカリキュラム構築を行っており、卒業後に身に付けたい力などの共通認識は持っている。学校の教育理念に関し、少人数教育や産学連携教育を通じて実践力を養うカリキュラムへ反映はできている。 教職員・講師に関しては定期的な会議等で周知を図り、学生に対してはオリエンテーション時等で周知を図っている。またHPにも記載し、社会に対しても周知を図っている。	学校全体の教育理念を各学科の教育で体现することはできている一方、学科特性に合わせた教育目標の設定や目指す人材像が明文化されていないのが課題である。 少人数教育で産学連携を通じてファッション業界で活躍できる人材を輩出するという理念をより学科で具体化していく。	講師や職員間での理念の浸透は今後も図っていく一方で、学科においては今後目指すべき人材像を設定し、それに向けて改めてカリキュラムの見直しや今の社会に求められる人材像の不断的に見直しを図っていく。

参照資料	中項目の評定
学則・	2

最終更新日付	2026 年 5 月 31 日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------------	-------	-------

1-2 職業教育のマネジメント体制の整備

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
1-2-1 職業教育を推進（教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上等）するために必要なマネジメント体制（以下「職業教育のマネジメント体制」という。）を整備し、有効に機能していること。	○当該専門学校の目的を実現するために、学校内に具体的に職業教育を推進するための組織体制を整備しているか ○職業教育のマネジメント体制は有効に機能しているか	組織編成上、職業教育を推進するにあたり、主たる役割を担っているのは教務部である。 カリキュラム編成にあたり、教務部スタッフとマネジメントスタッフが会議等を通じてカリキュラムを構築している。 また、適宜振り返りを行い、次年度に向けて改善すべきことを話し合い、次年度に活かしている。	講師より現状授業のヒアリングを行い、次年度のカリキュラムに活かす等の機会を定例的に設けられている。 課題としては、カリキュラム構築をするにあたり、会議等で決定をするが、年間を通してフローとしてより段階的に構築する場の設定があると、より良いのではないかと感じている。	教務部と講師が連携し、学生に対しより良いカリキュラムを提供しようとする機会が多く、その場合は今後も継続して実施していきたい。 また、カリキュラム構築に関しては、教育課程編成委員会も一昨年より開催しているため、より意見を反映できるような仕組みやフローを構築していきたい。

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	------------	-------	-------

基準 2 教育課程、教育の実施、学修成果

2-1 (1/2)

2-1 教育課程の編成と授業科目

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	○教育課程の編成にあたって、卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を策定しているか ○教育課程編成・実施方針に基づき、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置し教育課程を体系的に編成しているか ○当該専門学校における教育課程編成の過程は、明確になっているか	各学科において、目指す職業イメージは共有できている。教育課程編成に置いては、年2回の教育課程編成委員会の実施により、業界の意見をカリキュラムに反映するフローが構築できている。	各学科の目指す職業イメージは明確ではあるが、具体的な育成人材像の明文化までには至っていない。 学年ごとの到達目標に関しては、科目ごとの設定はできている。その積み上げがどのような力を育成していくかをより明確化していく必要がある。	少人数教育及び立地を活かした産学連携教育という長所をより伸ばし、卒業後に即戦力として活躍できる人材を育成するためのカリキュラム編成に注力する。学科・学年の積み上げを明確にし、より細分化した目標を設定していく。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【注】職業実践専門課程	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、産業界及び地域社会との連携による教育課程の編成・実施のため、教育課程編成委員会を設置しているか ○上記委員会を年2回以上開催し、産業界等からの意見について具体的に反映させるなど、委員会を機能させているか	ファッションクリエイター科・ファッションビジネス科に関しては、年2回教育課程編成委員会を実施し、意見を聴取してカリキュラム編成に活かしている。	地域の企業や業界団体の方から意見を頂き、カリキュラムに反映させることができている。課題としては、近年取り組みを始め歴史が浅いため、カリキュラム編成以外の話題に至る場面もある。	委員の方については定期的にメンバーを更新し、より今の業界が求める人材を把握できるようにしていく。 また、議事に関しては、よりカリキュラムの内容を明確化し、委員にとって意見の出しやすいように進行を進めていく。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を 10 単位以上開設していること。 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置している専門学校においては、外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を 10 単位以上開設しているか ○該当する授業科目は、文部科学省が規定する要件を満たす適切な内容になっているか	現状は当プログラムに該当していないため、授業科目を 10 単位以上は開設していない。ただ日本人と同じクラスの中で授業を実施しており、通常授業の中でコミュニケーションを図るように工夫をしている。	該当なし	該当なし

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026 年 5 月 31 日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------------	-------	-------

2-2 教育課程の実施

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。	○各授業科目について、適切な授業形態、方法及び教材が用いられているか ○授業科目ごとにシラバスを作成し、学生に周知しているか ○学生に対する履修指導、予習・復習等に係る相談・支援に取り組んでいるか ○成績評価について、授業科目の内容、形態に応じた基準を設定し、シラバス等で学生に明示した上で、学生の学習に係る評価を公正かつ厳格に行っているか ○成績評価の公正性・厳格性を担保するために、学生からの成績評価に関する問い合わせ等に対応するしくみを整備し、かつ学生に対して明示し、適切に運用しているか	各学科において、適切な授業形態を基に授業を実施している。 シラバスに関しても、教科ごとに作成をし、学生に周知している。 学習の相談に関しては担任含め、相談に乗る体制を整えている。 成績評価に関してもシラバスに配点を記載し、公正に評価する体制をとっている。 成績の開示については問い合わせがあった際に点数を開示できるように整えている。	科目ごとに沿ったシラバスを作成し、学習効果を高めるような取り組みを実施している。 また、各クラスに担任を配置し、学生個々の学習に対する相談に関しては適切に対応できるようにしている。 評価について定期試験という形で画一的に実施はしておらず、科目の特性に合わせて課題提出等で評価を実施している。 そのため、成績評価時期に多少のばらつきが発生しているため、そこが課題となっている。	学生の興味関心の高い授業内容を構築していくとともに、より毎年シラバス内容を見直し、業界の変化に合わせた内容にしていく。 評価時期に関しては、今後試験実施期間を設け、一定程度の評価時期の統一を図るとともに、より具体的な評価基準を設けていく。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）の授業を行っていること。 また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定課程（学科等）を設置する学校においては、実践的な職業教育として重要な企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という）を行っているか ○連携実習等の総事業時間数に占める割合を設定しているか ○連携実習等において、協力機関等と到達目標等を共有し、成績評価等について必要な協働・連携する体制を整備しているか	職業実践専門課程認定学科においては、企業と連携した実技や演習の授業を毎年実施している。 具体的には企業から講師を派遣し、その講師が授業を進める形で行っている。 そのため到達目標や成績評価に関しては講師と内容を確認し、協力体制を敷いて行っている。	毎年同様の企業に依頼をしているため、学習の内容が年々深くなっていると感じている。 その一方、多少内容が硬直化しているきらいもあるため、連携企業等に関しては更新していく必要がある。	単年での実施ではなく、一定程度継続して依頼していくことで到達するレベルの向上がみられる。ここに関しては一定のスパンを規定し企業と今後も連携を図って生きたい。 また、更新していくことも必要なため、数年程度の区切りを設定し、振り返りを行いながら連携企業の更新を実施していきたい。

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026 年 5 月 31 日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------------	-------	-------

2-3 単位・卒業認定

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	○あらかじめ、学生に周知している卒業認定方針に即した卒業認定の基準及び方法によって卒業認定を行っているか	取得単位数及び出席率を基に卒業認定を年度当初に周知している。 修得すべき能力に関してはカリキュラム上設定を行い、それに沿って科目配置を実施している。 毎年卒業進級判定会議を実施し、成績評価、出席状況を勘案したうえで卒業、進級の判定を行っている。	単位認定に際してはなるべく主観による評価を省き、客観的に評価できるように工夫している。 成績評価の公平性は確保されており、学生の納得度も高い。	到達すべき能力や技術・現場実践力などは卒業認定における評価として科目ごとに設定をし、評価を行っている。 資格取得に関しても、対策授業を実践しているが、必須資格という形での設定ではないため、より取得に関して注力していく。

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	------------	-------	-------

2-4 学修成果目標の達成状況

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	○卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。)の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか	学科の科目ごとに到達目標を設定しており、定期試験や課題提出、インターン実施等で学生の達成状況を評価している。	主として成績評価による評価と把握のため、客観性がある一方、点での評価につながりやすいことが課題として上げられる。	職業能力や人物像をより明確にし、到達度を定期的に振り返る機会を設けていく。
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	○学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ○卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ○卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか	入学当初及び定期的に現在目指す将来像を書き出し、それに向けた支援を実践している。 卒業後も卒業生に対して相談の窓口を開き、再就職支援や離職防止などの対策を実施している。 離職調査を行い、離職理由を精査するとともに、それをカリキュラムに活かすように取り計らっている。	入学当初の目標から、目標が変化することもあるので、その対応を柔軟に行っている。 卒業生に関しては、システムよりも個々の支援になっているので、卒業後も継続してつながってられるシステム構築が課題	学生の個々の状況をより具体的に把握し、サポートできるように定期的に面談を実施していく。また、卒業生に対してフォローアップを行う仕組みを具体的に構築していく。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
2-4-2 続き	○卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか	内定先の企業に関しては卒業生の現状をヒアリングする機会を一部設け、就職に必要なスキル把握に努めている。 学校関係者評価や教育課程編成委員会に置いて外部の声もヒアリングし、より学生の自己実現ができるカリキュラム構築に努めている。	卒業生とのつながりが強い分、卒業後に学校を訪問してくれる卒業生から課題をヒアリングすることはできている。 それが仕組みとして整備されているわけではないので、仕組化をしていくことが重要である	卒業生・内定企業等を訪問し、現状の課題や学校に教育として求める基などをさらにヒアリングする機会を仕組みとして設けていく必要がある、

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026 年 5 月 31 日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------------	-------	-------

基準 3 学生の受入れ、学生支援

3-1 (1/1)

3-1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-1-1 入学者の受入方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	○卒業認定方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて学生の受入れ方針を定め、求める学生像や入学者に求める水準等を明確に示しているか ○また、選抜方法及び手続をあらかじめ公表した上で、所定の選抜基準及び体制のもとで適切かつ公正に入学者を選抜しているか	募集要項及び学校 HP にて、求める学生像や選考方法を明示し、基準通りに実施している。	選考時期が総合型選抜・高校推薦・一般入試とそれぞれ分かれているため、早期志願者から社会人まで幅広い人材を受け入れられている。	高校生の進路選びが早期化しているため、それに対応して選考基準などをより早い時期に明示していきたい。
3-1-2 学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。	○入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しているか	入学定員及び収容定員に対し在籍学生が超過しないように適切に運用している。	特に問題なし	特に問題なし

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026 年 5 月 31 日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------------	-------	-------

3-2 多様な学生に対する修学支援

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-2-1 適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生の修学に関する支援を行っていること。	○障がいのある学生、海外からの留学生等多様な学生に対して必要な配慮、支援を行っているか	多様な学生に対し、担任制を導入して担任が1次サポートを行い、その後必要性に応じてより専門性の高いサポート機関につなげている。	少人数制の中で、個々のサポートはできている。 合理的配慮の対応もしており、今後事例を重ねていく中でよりよい対応を実施することが課題	留学生に向けては日本語力の強化が必要であり、その対策プログラムを検討している。
3-2-2 特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されていること。 【注】外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○特に、外国人留学生キャリア形成促進プログラムの認定課程を設置する専門学校においては、海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されているか	留学生に関してはビザの更新やアルバイト報告、出席指導等の適切な在籍管理を実施している。 留学生と日本人でクラスを分けていないため、クラスメイトと交流する機会を設けている。	個々に対する支援は実施できているが、日本語力に差があるため、日本語が苦手な学生に対し日本語力を向上させる取り組みが今後の課題である。	上記同様、日本語力向上のプログラムを構築していくことと、グループワーク等で日本人学生との交流も定例的に実施をしていく。
3-2-3 学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	○学生が就学を継続するための経済的側面に対する支援体制を整備し、情報の提供及び相談について適切に周知、運用しているか	日本学生支援機構の奨学金を中心に、企業型の奨学金制度も周知を図っている。	学生個々にたいし、申請手続き等きめ細やかな対応を行っている。	経済的困窮学生の発見とフォローアップをよりフローとして実施できる体制づくり

参照資料	中項目の評定
	2

最終更新日付	2026年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	------------	-------	-------

3-3 学生生活に関する支援

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-3-1 カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	○学生生活等に関する相談体制を整備し、相談対応について、十分、学生に対して周知し、機能、活用されているか	学園グループで利用可能な学生相談室を設置し、学生に周知を行っている。 自分自身でも予約ができるほか、担任を通して予約することもできる体制となっている。	存在自体が安心感につながっている一方、利用率については今年からの取り組みになるため、積極的に利用を促すことが課題となっている。	心身の不調を早めに把握し、相談室へ適切につなげていくサポートをより充実させていく。
3-3-2 留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	○留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生にあわせて他部署も巻き込んで個別に対応できているか	学生の状況を把握したうえで、学習上の課題に関しては授業担当の講師を含め状況を共有し、対策をとっている。 教務だけでなく、事務局のスタッフも学生状況の把握に努めている。	担任や事務部を含め、学校全体で学生の状況を共有し、対応に努めていることが長所として上げられる。 課題としては、学生の問題が多様化していく中で、より仕組みの部分で救済できるような措置の検討が必要。	個々人のカウンセリング力の向上は継続的に行っていく一方、休学や転科・転校・長期履修などの制度活用や学生のペースに合わせた学習計画の構築が必要。

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-3-3 学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	○定期的な健康診断の実施、結果のフォロー、健康管理に関する啓発活動など、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用しているか	年に1度健康診断を実施し、再検査対象学生に関しては提携医療機関への受診を促している。 また学校医と年に数回ミーティングを行い、健康診断の実施方法などの改善に努めている。	健康診断の受診率は高い一方で、再検査対象学生の再検査の促しが弱くなってしまうことが課題。	健康診断が就職活動等にも重要になってくるという動機づけを活かしながら、再検査の実施も推奨していく。
3-3-4 学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	○キャリアセンターとの連携強化及び学生への情報の周知、運用ができているか	学生個々の就職希望をヒアリングしていきながら、担任と事務局が連携して就職支援にあたっている。	履歴書添削・面接指導など、個々に合わせた指導を実施している。個別性が高いことが長所である。 活動開始時期が早期化する中で、長期休暇中、特に春休み中の就職動向の把握が今後の課題。	長期休暇中においても学生と連絡が取れる体制を構築し、就職活動をフローで支援できる体制を作っていく。

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	------------	-------	-------

3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
3-4-1 学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	○自主学習等に対する相談対応と学習支援 ○成績不振の学生の状況把握と指導 ○留年及び休学者の状況把握と対応 ○退学希望者の状況把握と対応	実技系科目においては、曜日を定め補習時間を設けている。そこで進捗に課題のある学生のフォローを行っている。休学者に関しては月に1回程度連絡をとり、状況把握に土止めている。	能動的に能力を高めたいという学生にとっては、補習を受けることでより学習の強化が図れる一方、苦手意識を持っている学生に対して参加を促していくことが今後の課題である。	補習のとらえ方をよりポジティブにできるような働きかけの改善を行っていく。
3-4-2 正規の授業時間以外に行われる、課外活動など学生の自主的な活動を充実させるため、適切に支援していること。	○部活動などの実績と支援の実施 ○ボランティア活動の実績と支援の実施	部活動やサークル活動は現状取り組みがないが、インターンやプロジェクト活動という形で正規の授業以外で企業課題に取り組むことを行っている。	プロジェクト活動の中ではアイドルの衣装制作などが取り組まれており、意欲の高い学生が参加できている。	校舎の一部を外部に利用してもらい、近隣のファッション関連のスタッフが研修として利用している例もある。そこに学生が入り、教育的価値を構築していきたい。

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	------------	-------	-------

基準 4 教員・教育実施組織

4-1 (1/1)

4-1 教員の配置、募集、採用

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-1-1 教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員について、採用基準等を整備し、適正に運用していること。	○法令上の基準を遵守し、学校の目的を実現し、目標の達成するための教育を十分に実施できるだけの教員を配置しているか	教員の配置に関しては経験のある適切な人数を配置しており、教育目的を達成するために十分な人員を配置できている。	採用に関しては法令上の基準はクリアしているが、実務経験などは状況に合わせて採用しており、より明確な科目や学科に対する基準を設けても良いかもしれない。	学生を育成する能力について、採用時に面接等で確認しているので、継続する一方、職員が育てたい人物像と学校が育てたい人物像をよりすり合わせしていくことが重要。

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026 年 5 月 31 日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------------	-------	-------

4-2 教員の組織編制等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-2-1 学校の目的に応じた教育を実施するために、適切な業務分担、責任体制のもとで分野の区分ごとに、教員の組織体制を整備していること。	○当該専門学校の教育活動を進めるための基本的な組織体制を整備しているか ○組織の責任体制、役割分担が規程等において明確で、連携体制が機能しているか、 ○当該専門学校の目的等を共有し、達成に向けた協働意欲を醸成するために、教職員組織等の円滑な運営と改善向上に向けた取組を行っているか	教育責任者に加え、学科ごとに担任を配置し、カリキュラム構築や授業間の連携を図っている。月に1度職員の全体会議を実施し、現状の問題点の改善について話し合っている。 担任同士のミーティングについても、隔週で実施をしている。	学科毎の構築が強化されることが長所として上げられる一方、学科を超えた成功体験の共有などが弱まる部分が課題として上げられる。	担任は学科を超えた中で情報共有を行い、自学科だけでなく学校全体の学生に対してフォローができるように情報共有を強化していく。

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	------------	-------	-------

4-3 教員の資質の向上

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	○教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ○教育の質の向上に向け組織的なファカルティ・ディプロットメント活動に取り組んでいるか	学校単体ではなく、学園グループ全体で研修計画を策定し、対象となる経験年数や役職のスタッフが参加している。	現状の学生理解や教育活動への具体的な活用ができている。 教員経験が浅い、又はない職員に対して、質の均一化に寄与している。	多様化する学生の課題に対し、研修の中だけでは補えない部分もあるため、OJTの中でその部分はフォローしている。
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にしていること。【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的にしているか	専攻分野に対する研修を年に3回程度、定期的に実施している。	トレンドの移り変わりが早い分野の中で、毎年情報を更新していくことが重要になっている。	研修に関しても、業界動向をより把握し、その年に合った内容を受講できるようにより精査していく。
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的にしていること。 【注）職業実践専門課程】	○職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的にしているか	クラスマネジメントを中心にした研修を実施している。 担任授業において、コミュニケーション力・社会人基礎力を養成するための内容に注力している。	少人数制の中で、よりクラスマネジメントの重要性は増しており、個々のフォロー力と合わせて仕組みとしてクラス運営できる力が必要になっている。	学生が安心した環境の中で授業が受けられるように、担任としての指導力向上の研修は継続的に実施していく。

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	------------	-------	-------

基準 5 教育環境

5-1 (1/1)

5-1 教育環境の整備点検、改善等

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
5-1-1 専修学校設置基準及び関連法令に基づき、教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。（補修、更新含む）	○当該専門学校における教育課程を実施するために必要、かつ十分な施設と、学生数、教育内容、教育方法に対応するための設備を整備し、十分活用しているか ○施設、設備について適宜点検し、計画的に改修、補修等を適切に行っているか	法令に定められた設備を含め、一人1つのパソコンやマシンなど、学生が授業を不便なく受講できるだけの環境を整備している。 校舎営繕に関しても月に1回定期的な営繕業者とのミーティングを設け、補修等の細かな内容を漏れないように調整している。	外壁補修等含め、計画的に校舎補修は進められており、今後も校舎営繕や計画的な補修に努めていく。 またパソコン等の機器に関しても複数年を経過した物に関しては機能を勘案し、リース等で更新ができるようにしている。	少人数制の中で、学生に不自由のない環境を提供できている。今後も業界のニーズに合わせ、機器や教材の更新等は定期的実施していきたい。

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026 年 5 月 31 日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------------	-------	-------

5-2 安全対策、防災組織

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
5-2-1 学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	○学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、火災の発生及び大規模災害発生時並びに授業中の安全管理等において、適切に対応しているか	年に1度火災を想定した避難訓練を実施しており、職員にも役割を振り分けて適切な訓練を実施している。 また消火器の使用したことのない職員に向けては使用訓練も実施しており、緊急時には対応できる体制を整えている。	学校から2次避難場所が離れた場所にあるため、そこまで避難誘導を緊急時に実施できるかのシミュレーションはもう少し内容を詰めて実施する必要がある。 また帰宅困難時における対応訓練は詳細な内容を実施できていないため、次年度に向けて改善していきたい。	火事だけでなく、地震による帰宅困難時の対応や、より遠方に避難することになった際の対応など、様々なシチュエーションを想定した訓練を今後充実させたい。

参照資料	中項目の評定
	2

最終更新日付	2026年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	------------	-------	-------

基準 6 教育活動の基盤と情報の公表

6-1 (1/1)

6-1 中期事業計画と財務基盤

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-1-1 当該専修学校の中期事業計画又は設置法人の中期事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	○当該専門学校の目的を実現するために、実効性のある具体的な中長期的計画が策定されているか ○設置法人が策定している場合は、計画上に当該専門学校における教育等の内容が明確に位置付けられているか ○計画の進捗状況、組織上の役割分担、計画の見直しなど計画の遂行の実効性は十分か	中期事業計画に関しては、5カ年を目安に今後の募集活動、教育計画を策定し、その推進に努めている。 毎年計画については見直しを行い、現実とのずれがないように留意している。	毎年 9 月ごろに次年度の計画及び 5 カ年の計画をくみ上げ、関係各所と内容をすり合わせてしている。 単年度の教育目標の達成だけでなく、5 年後の教育到達のイメージをより具体化することが課題として上げられる。	教育課程編成委員会含め、業界からの動向のヒアリングを中期計画に反映していくことで、実践力のある学生の育成に寄与していきたい。
6-1-2 当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。【注）修学支援新制度機関要件の確認】 【注）外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	○中期事業計画を実行し、当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか、不十分な場合は改善に向けた計画を策定しているか	現状では中期計画上で財務状況が改善されるように募集計画を策定しており、それに沿って学科編成などを含め改善をしている途中である。	募集計画を策定するにあたっては、入学希望者のニーズをより分析し、業界が求める人物像とすり合わせていくことが肝要である。 その視点をより深くもち編成を進めていきたい。	服飾学校として他校との差別化を図るカリキュラム編成を、立地面も含めてよりブラッシュアップしていき、魅力ある学校づくりに取り組んでいく。

参照資料	中項目の評定
	2

最終更新日付	2026 年 5 月 31 日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------------	-------	-------

6-2 学校運営

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-2-1 学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	○当該専門学校の全体の運営について、事務組織体制を整備し、業務分担、責任体制が明確になっているか ○教員と職員による連携体制を確保しているか ○校長による意思決定及び執行管理が適切に行われているか	職務分掌を作成し、事務部・教務部が連携して学生支援に取り組んでいる。 少人数教育の利点を生かし、役割を明確化したうえでそれに硬直化しない運営を目指している。	職員・教員が連携をしながら運営に当たっている。 月に1度の全体会議を含め、定期的に情報共有を図りながら業務を進めている。	意思決定に際し、校長含め運営職員で行いながら、職員の意見も反映して運営をしている。
6-2-2 学校運営に必要な知識・技能等を身に着け、意欲及び資質を向上させるためにSD (Staff Development) 活動などの取組が行われていること。	○学校運営を適切かつ効果的に行うため、学校の管理運営や教育活動等に関わる教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための組織的に研修の機会を設けるなどの取組を行っているか	東京都専修学校各種学校協会が主催している研修を始め、学校運営にかかわる研修に関しては適切な役割の職員が受講できる環境を整えている。	新規職員に対しては年間の中で達成したい目標を設け、そこに向けて年間どのように携わるかの設定もしている。 OJT 制度を通じて、職員の育成にも注力している。	学校全体として、より職員の育てたい能力を明確化し、それに向けて研修の計画を再構築するなどの取組みを行っている。

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026 年 5 月 31 日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------------	-------	-------

6-3 学校評価の実質と改善活動

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-3-1 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。【職業実践専門課程】	○定期的に外部を招いての会議を実施し当該専修学校の運営やその改善・向上において活用しているか ○職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか	学校関係者評価委員会は年に1回・教育課程編成委員会に関しては6月・10月の年に2回実施している。 その中で意見を頂いた内容に関して、カリキュラムや学校運営に反映している。	各委員会に置いて、委員の方から活発に意見が出るように会議の運営をしている。 頂いた意見をカリキュラムに反映しており、より業界と学びが直結するように意識している。	少人数制の中でより実践力を育てるカリキュラムを今後も構築していきたい。 委員に関しては定期的に更新をし、より多くの委員の方からご意見を頂戴できるようにしていきたい。
6-3-2 学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	○評価結果を報告書に取りまとめているか ○結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行い、改善状況についての情報を公開しているか	評価を報告書にまとめ、今後の課題や改善についても情報を公開している。	学校評価は年に1度実施し、改善している。今後も継続し行きたい。	学校評価をより分かるような形で公表していきたい。
6-3-3 学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	○評価結果に対する改善を検討・意思決定をする組織体制は整備されているか ○評価結果に基づく学校改善に取組む体制は整備されているか	評価結果に対して共有し、改善についての会議を開いている。	組織的に取り組んでいるので、それを今後も継続していきたい。	改善の結果がより分かるような公表の方法を検討したい。

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026年5月31日	記載責任者	中村 道雄
--------	------------	-------	-------

6-4 社会からの理解と情報の公表

点検・評価項目	評価の視点	現状の説明	長所・課題	長所の伸長・課題の解決策
6-4-1 当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	○自己点検・評価結果をはじめ、公表が求められている教育情報について適切に公表し、説明責任を果たしているか	法令で定められている情報に関しては HP を基に適切に公表して言う。	今後も継続して定期的に情報が更新されていくように努めていきたい。	特になし
6-4-2 教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取り組んでいること。	○当該専門学校の教育内容等が社会から理解を得られるように、特に産業界等への積極的な取組が行われているか ○教育課程の編成、実施など実践的な職業教育の展開、改善・向上に向け、継続する教育機関（高等学校等）、産業界、自治体等からの意見を積極的に聴取し、活用しているか	教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会を始め、業界からの意見を聴取し、活動にいかすとりくみを継続的に行っている。 地域に関して少しかかわりが薄い部分があるので、町内会含めより積極的にかかわりを持っていきたい。	学生が産業界に貢献できるような産学連携教育に取り組んでおり、このような取り組みを今後も拡充していきたい。 地域とのかかわりにしても学生が希薄な部分が課題として上げられる。	学生と町内会かかわりを持てるような機会を今後持たせていきたい。より業界内の多様な職種の方から意見聴取を行う機会を持っていきたい。

参照資料	中項目の評定
	3

最終更新日付	2026 年 5 月 31 日	記載責任者	中村 道雄
--------	-----------------	-------	-------